

一般社団法人 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会

2022 年度 定例代議員総会議事録

日 時：2022 年 11 月 10 日（木）17：30～18：55

会 場：幕張メッセ 国際会議場 2F 201

形 式：会場ならびに Zoom オンラインの併用

代議員数：215 名

出席者数：205 名（本人出席 134 名、委任状出席 71 名）

出席理事：石川朗、植木純、大平徹郎、桂秀樹、川山智隆、黒澤一、神津玲、近藤康博、権寧博、
関川清一、竹川幸恵、田邊信宏、玉木彰、津田徹、富井啓介、仲村秀俊、中山勝敏、
長谷川智子、長谷川好規、平井豊博、福家聡、堀江健夫、宮川哲夫、森由弘
（計 24 名）

欠席理事：吉川雅則（計 1 名）

出席監事：一和多俊男、岩永知秋、陳和夫（計 3 名）（五十音順、敬称略）

議事開始について：

理事のうち、石川朗、植木純、大平徹郎、桂秀樹、川山智隆、黒澤一、神津玲、近藤康博、
権寧博、竹川幸恵、田邊信宏、玉木彰、津田徹、富井啓介、仲村秀俊、中山勝敏、長谷川智子、
長谷川好規、堀江健夫、宮川哲夫、森由弘の各氏ならびに監事の一和多俊男、陳和夫氏は会場
にて出席、理事のうち関川清一、平井豊博、福家聡の各氏ならびに監事の岩永知秋氏は Zoom
にて出席した。代議員 146 名は会場にて出席（委任状参加者 71 名含む）、代議員 59 名は
Zoom にて出席した。

定款第 17 条により議長には植木理事長がついた。また、本代議員総会の成立条件である定足数に
ついては、定款第 19 条第 1 項により「代議員総会の決議は、総代議員の議決権の過半数を有する代
議員が出席し、出席した当該代議員の議決権の過半数をもって行う」となっており、総代議員現在
数 215 名の過半数である 108 名（委任状含む）の出席が必要であるが、本日の総会は、代議員出席
者 205 名（委任状提出者 71 名含む）であり、過半数の 108 名を上回った。

よって本代議員総会は有効に成立し、以下の議案について随時審議した。

第 1 号議案 議事録署名人の選任について〔審議事項〕

定款第 23 条により、「代議員総会の議事については、法令の定めるところにより、議事録を作成
する。議長および代議員総会において選任された議事録署名人 1 名は前項の議事録に記名捺印する」
とあり、33 回会長を務められる黒澤一理事が推薦され承認された。

第 2 号議案 学術集会について〔報告事項・審議事項〕

第 32 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会について、桂会長より資料 1 頁以下記
載の通り、基調講演・特別講演・招請講演等のプログラム数や内容の紹介等準備状況の報告があっ

た。

第 33 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会について、黒澤会長より資料 12 頁に記載のとおり、開催について準備状況の報告があった。

第 34 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会について、近藤会長より、会期・会場について、愛知県の愛知国際展示場 (Aichi Sky Expo) において、2024 年 11 月 8 日 (金) ~9 日 (土) において開催したいとの報告があった。

第 35 回学術集會会長については、2022 年 8 月 20 日に開催した理事会で大平徹郎先生が推薦されたことが報告され、本会に諮った結果、承認された。

第 3 号議案 学会賞・学会奨励賞受賞について [報告事項・審議事項]

桂学会賞選考委員長より、選考結果について報告があった。学会賞 4 件、学会奨励賞 1 件の応募があり、委員会、理事会で審議した結果、学会賞 2 件、学会奨励賞 1 件が本会に諮られ承認された。受賞者を以下に記載する。

<受賞者> (敬称略)

学会賞：川越厚良 (市立秋田総合病院 リハビリテーション科)

研究業績題目：本邦における COPD 患者の臨床症状の実態に則した
身体活動量へのアプローチ

長崎呼吸器リハビリクリニック (代表 力富 直人)

研究業績題目：25 年にわたる有床診療所における呼吸リハビリテーション
の普及に向けた取り組み

学会奨励賞：古川大 (市立秋田総合病院 リハビリテーション科)

研究業績題目：臨床応用可能な COPD 患者の身体活動量を維持するための取り組み

第 4 号議案 医療の質特別賞受賞について [報告事項・審議事項]

堀江診療報酬適正化委員長より、選考結果について報告があった。一次選考 272 演題、二次選考 57 題があり、委員会、理事会で審議した結果、資料記載の 4 件が本会に諮られ承認された。

受賞者を以下に記載する。

<受賞者> (敬称略)

[呼吸リハビリテーション領域]

演題名：COPD 患者における外来呼吸リハビリテーションの頻度による効果の差

筆頭演者名：川島拓馬 (日本鋼管病院) 職種：理学療法士

[酸素療法・呼吸管理領域]

演題名：看護師特定行為研修修了者が RST (呼吸ケアチーム) として活動した 1 年の成果

筆頭演者名：分造健太 (愛知医科大学病院) 職種：看護師

[疾病管理領域]

演題名：食道切除再建術における術前の吸気筋力と術後肺炎の関連

筆頭演者名：大倉和貴 (秋田大学医学部附属病院) 職種：理学療法士

[その他の領域]

演題名：革新的な mobile telespirometry system の開発：フィージビリティ試験

筆頭演者名：松木美貴（順天堂大学大学院医療看護学研究科） 職種：臨床検査技師

第 5 号議案 2021 年度事業報告〔報告事項〕

① 2021 年度事業報告

議長の指名により、事務局から配付資料に基づき 2021 年度の実業報告がなされ、学術集会・地方会の開催や学会誌の発行等が報告された。

② 会員数の推移状況

議長の指名により、事務局から、資料 P19～21 にかけて職種別・支部別・都道府県別の一般会員数について報告があった。2021 年度も COVID-19 禍の影響で、前々年度からの継続した新規入会数の伸び悩みもあって、4,276 名になり、ピーク時（2018 年度）より 276 名の減少となったことが報告された。

第 6 号議案 2021 年度決算報告〔報告事項・審議事項〕

配付資料に基づき、権財務委員長より決算報告がなされた。2021 年度は、第 31 回学術集会ならびにスキルアップセミナーがハイブリッド開催で厳しい収支となったものの、学会誌の発行時期のズレや経費節減の効果もあり、前年度より 17 万円下回る 638 万円の当期経常増減額となった旨の報告があった。一和多監事より監査報告があり、本会に諮った結果 2021 年度決算は承認された。

第 7・8 号議案 2022 年度事業計画ならびに修正予算（案）〔報告事項〕

議長の指名により、事務局から、配付資料に基づいて 2022 年度事業計画案が報告された。続いて、2022 年度修正予算について報告がなされた。2022 年度については、学会誌の発行時期のズレの補正やマニュアル事業費等で支出を見込むため、赤字予算を組んだことが報告された。

第 9 号議案 名誉会員・功勞会員候補について〔審議事項〕

<2022 年度>

名誉会員候補：木村弘先生（関東支部）

蝶名林直彦先生（関東支部）

三嶋理晃先生（近畿支部）

功勞会員候補：上月正博先生（東北支部）

森由弘先生（中国・四国支部）

津田徹先生（九州・沖縄支部）

理事会から推薦された 2022 年度の候補者全員が承認された。

第 10 号議案 理事会報告〔報告事項〕

議長より、36 頁記載の配布資料に基づき、昨年 11 月 11 日開催ならびに本年 8 月 20 日開催の理事会での審議結果について説明があり、8 月理事会で倫理・COI 委員会から付議された研究倫理

申告書の制定議案で次回持越しがあったがそれ以外の議案では承認可決されたとの報告があった。

(注：本日開催の理事会で倫理・COI 委員会提案の研究倫理申告書の制定議案は承認された)

第 11 号議案 各種委員会報告〔報告事項〕

① 総務委員会報告

植木総務委員長から 8 月 20 日に開催した委員会審議内容について報告があった。第 35 回学術集会会長については、第 2 号議案で報告した通り大平徹郎先生を推薦した。名誉会員・功労会員については、第 9 号議案で付議した 6 名の先生方の推薦を決定した。理事長候補者として植木純先生を推薦した。追悼文の学会誌掲載基準について理事会に提案することが申し合わされた。

② 将来計画委員会報告

近藤委員長より、資料に基づいて新規会員獲得の増強や他学会との連携について検討した旨の報告がなされた。今後の会員増強策について支部長にアンケートを行った結果について報告があり、必要な提案事項をまとめて理事会に諮っていく旨の報告があった。

③ 財務委員会報告

権財務委員長から 7 月に開催された委員会審議について、第 31 回学術集会決算報告、第 32 回学術集会予算、2022 年度予算案について審議した結果、承認された旨の報告がなされた。また、会員システムの業者変更、転載許諾料の改定、演題・抄録閲覧システム「コンナビ」導入についても、委員会で審議し承認した旨の報告があった。

④ 編集委員会報告

黒澤編集委員長から、プレプリントサーバー公開論文の投稿、追悼文の掲載、論文 PDF の DOI 記載、コレスポンディングオーサーの記載、J-STAGE 早期公開、用語集第 4 版の掲載、論文審査、掲載論文内訳、転載許諾状況について報告がなされた。

⑤ 呼吸リハビリテーション委員会報告

植木委員長より、2021 年度実績として、第 16 回呼吸リハビリテーション研修会は、COVID-19 禍で延期したこと、「呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアル」を出版したこと、COVID-19 に関する呼吸リハビリテーション全国調査を実施したことなどの報告がなされた。2022 年度計画として、第 16 回呼吸リハビリテーション研修会は新型コロナの動向により開催時期を決定すること、呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法-第 2 版については、呼吸リハビリテーションガイドラインとして新たに作成を予定しているとの報告があった。

⑥ 診療報酬適正化委員会報告

堀江診療報酬適正化委員長より、2021 年度の主な活動報告、2022 年度診療報酬改定提案で

は在宅ハイフローセラピー装置加算で承認はされたものの、提案内容とはかけ離れたものとなっており、次回 2024 年度改定に向けて新たな提案を検討していく旨の報告があった。医療の質特別賞については、定義を明確化して申し合わせを改定したこと、今後の活動計画等が報告された。2024 年度診療報酬改定に向けて、委員会審議を活発化させていく旨の報告がなされた。

⑦ 広報委員会報告

福家広報委員長より、2021 年度の活動結果ならびに 22 年度の活動計画について説明があった。ホームページのリニューアルを主な課題として、関連コンテンツの見直し、スマホ対応、英文ページの設置、編集委員会と連携した COVID-19 症例報告の募集開始等について報告がなされた。ホームページのリニューアルとスマホ対応については、最優先課題として取組む方針雅示された。

⑧ 呼吸ケア指導士認定委員会報告

桂呼吸ケア指導士認定委員長より、2022 年呼吸ケア指導士認定（初回・更新）、企業主催セミナーに対する呼吸ケア指導士点数付与、呼吸ケア指導認定講習会の Web 開催状況、GSK 医学教育助成金を活用した実技講習会の単位付与、呼吸ケア指導士認定制度細則の認定資格関連の検討を進めていくことについて報告された。

⑨ 呼吸ケアスキルアップセミナー実行委員会報告

桂呼吸ケアスキルアップセミナー実行委員委員長より、2021 年 11 月開催の第 8 回セミナーの結果報告、また、11 月開催の第 9 回セミナーの開催概要、第 6 回～第 8 回のセミナー講演要旨の学会誌 31-1 号への掲載予定等が説明された。
報告があった。

⑩ 倫理・COI（利益相反）委員会報告

長谷川倫理・COI（利益相反）委員長より、10 月 21 日に委員会を開催し、新役員および第 33 回学術集会プログラム委員の COI 自己申告書の提出内容確認を行ったこと、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等に基づき、学術集会演題登録や発表時の研究倫理等申告書（案）を理事会に提案し本日開催の理事会で承認された旨の報告があった。なお、実施開始時期については、33 回学術集会か、34 回かについては、会長判断に委ねられることになった。また、明日開催の学術集会で、「学会発表における倫理」と題した講演がなされ、動画を学会 HP で閲覧できるようにする旨の報告があった。

⑪ 国際化委員会報告

川山国際化委員長より、32 回学術集会での国際シンポジウムの支援として、演者の動画の HP への掲載、会員向けに実施したニーズ調査の結果、33 回学術集会プログラム委員会への国際シンポジウムの支援提案等について報告がなされた。

⑫ 禁煙推進委員会報告

黒澤禁煙推進委員長より、昨期迄の活動実績として、禁煙宣言の公開、タバコ関連企業からの資金受入れ自粛、呼吸ケア指導士規則での非喫煙者規定化、呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援マニュアルの禁煙項目の執筆、禁煙推進学術ネットワークに加盟したこと、禁煙推進学術ネットワーク関連では、緊急声明への参加、厚労省あての要望書への参加、第5回禁煙推進学術ネットワーク学術集会（2023年10月1日開催予定）の開催を日本呼吸器学会、日本口腔インプラント学会とで共同開催する旨の報告があった。活動実績ならびに計画としては、学術集会での禁煙セッションへの対応（教育講演、ワークショップ）また、地域での禁煙啓発ニーズを探る（理事会でアンケート実施承認済）、各職種用ポケットガイドなどの作成を行うことになった。

⑬ 呼吸不全緩和ケア検討委員会報告

津田呼吸不全緩和ケア検討委員長より、2021年4月に日本呼吸器学会と合同にて「非がん性呼吸器疾患の緩和ケア指針2021」を公開、その後の対応について、厚労省説明、診療報酬での緩和ケア加算の提案、関連学会との連携した周知を進めているとの報告があった。

⑭ 学会賞選考委員会報告

桂学会賞選考委員長より、採点基準の改定、学会賞選考委員の審議会議での除外基準、募集要項の改定について検討を行った旨の報告があった。改定骨子は、学会賞・学会奨励賞ともに、応募業績に関連した応募者自身の原著論文1編以上必須を応募条件としたこと。

短期 ①医学教育事業検討委員会報告

桑平医学教育事業検討委員長より、日本呼吸器学会と本学会の合同事業であるe-ラーニングコンテンツ作成・公開（全タイトル収録済）の進捗状況ならびに本学会員の視聴状況（10,804回）が報告された。

2016年度GSK医学教育事業助成は、呼吸器疾患支援患者のセルフマネジメント支援マニュアルの作成を以て完了したことが報告された。

2020年度GSK医学教育事業助成については、2022年開催は3支部で北海道、東北、甲信越支部で開催した旨報告があった。2023年開催予定は、関東、東海、近畿の3支部で開催、2024年は、北陸、中国・四国、九州・沖縄の3支部で実施する予定。

短期 ②呼吸リハビリテーション手技マニュアル作成委員会報告

神津委員長より、呼吸ケアカンファレンスのテキストを基にマニュアルを整備していること、メンバーに1名追加したこと、スケジュールについて、2022年12月末までに校正を完了させる方針であるとの報告があった。

第12号議案 理事・監事の選任について

議長の指名により、事務局より資料86頁記載の理事候補者ならびに監事候補者について選任を求める提案があった。候補者を以下に記載する。

理事候補者（25名）

安藤守秀、石川朗、石塚全、植木純、大平徹郎、桂秀樹、川山智隆、菊地利明、黒澤一、神津玲、近藤康博、権寧博、関川清一、高橋仁美、竹川幸恵、田邊信宏、玉木彰、中西徳彦、中野恭幸、

仲村秀俊、中山勝敏、平井豊博、福家聡、堀江健夫、吉田誠

監事候補者（3名）

岩永知秋、陳和夫、長谷川好規

以上の候補者について、本会に諮った結果、全員異議なく承認可決された。

第13号議案 会員システムの移行状況について

議長の指名により、事務局より資料 88 頁記載の会員管理システムの移行状況について説明があった。新たに、Web 会員証を発行すること、取得単位の確認機能を付加することで、スケジュールとしては、2023 年 2 月中の完全移行を目指しているとの説明があった。

第14号議案 その他について

特になし

以上を以て、すべての審議は終了した。

上記決議を明確にするため、本議事録を作成し、定款第 23 条第 2 項に基づき、議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

2022 年 11 月 10 日

一般社団法人日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
定時代議員総会

議 長 植木 純 印

議事録署名人 黒澤 一 印